

## 平成30年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成30年5月29日（火） 午前10時30分から12時10分まで
- 場 所： 市立病院5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 黒田 啓史, 半場 江利子, 松本 重雄, 位高 光司, 山本 壯太,  
能見 伸八郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則  
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 大島担当副部長, 榎木担当副部長,  
濱口経営企画課長, 石田総務担当課長, 桑原管理PFI担当課長, 北川京北病  
院事務長

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 平成29年度 京都市立病院機構決算（速報値）について

資料1に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 材料費の支出額が28年度より多い。また、経費も支出額が増大している。原因は何か。
  - 外来での高額薬剤の使用や手術の件数が増加していることから、それに伴い材料費が増加している。また、医業収益が増加したが、事業量が増加したことによって光熱水費や医師の応援謝礼等の経費も増加している。医薬品については、半年に1度、価格交渉を行っており、診療材料についても、安価なものを使用するよう呼び掛けを行っている。
- 市立病院と京北病院を比較したら、質的に見ても大きな差がある。京北病院が担う役割を教えてください。
  - 京北病院は地域医療を担う病院であり、介護、在宅等を含め、全てにおいて医療提供できる病院である。また、病床規模等将来を見据える必要があるため、方向性を出すための情報収集を医療政策監を中心に行っている。
- 京北病院は赤字が続いているが、収益をどう見ているのか。
  - 単年度黒字化を目標としている。必要経費は自病院で賄えるようにしたい。稼働率が70%を下回っているため、患者ニーズをつかみ、介護施設や福祉施設等と連携を進め、新入院患者獲得へ取組を進めることが必要だ。
- 退院促進の観点から、市立病院である程度機能が回復したら京北病院で療養し、自宅療養できる仕組みを市立と京北との間で作ってみてはどうか。
- 市立病院の医師の給与額はどうか。
  - 医師の給与面は独法化以前と比較し、かなり改善されている。問題は、主に若手職員に対して、いかにやりがいを持って働いていただくかが課題である。職員満足度の向上は今年の重点目標の一つである。
- 訪問診療件数が伸びなかった原因はあるのか。
  - 現状、高止まり状態であり、介護度が高ければ特養に流れる。老健についても稼働率を上げていく必要がある。

#### (2) 平成29年度 年度計画における実績報告について

資料2-1に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- ロボット支援手術件数が増加しているが、経費は通常の手術と比較するとどうなのか。

- ロボット支援手術を行う方が高額である。
- 人間ドック割引キャンペーンについて教えて欲しい。また、割引を行うことで利益となるのか。
  - 協会けんぽ組合員等の割引を使った受診が6月以降から開始されることから、例年4月、5月は人間ドック受診者が少ない傾向にある。個人受診者などを対象に割引キャンペーンを行っている。割引後は、約3万円で受診できる。また、割引を行うことで受診者が増加し、病院経営にもプラスとなる。乳がんドックなどの受診者増加に向けて広報活動や体制を整えていく。

資料2-2に基づき、森本理事長から説明

- 紹介率が向上した理由と逆紹介率が高いことは良いことなのか教えて欲しい。訪問活動は1度だけの訪問だけではなく、複数回訪問するとよいと思う。
  - 地域のかかりつけ医を中心に訪問活動を地道に行い、紹介率向上に繋げた。逆紹介を積極的に行うことで、逆に本院への紹介に繋げている事例もある。
- 市立病院の材料費比率が高い。具体的な方策はあるのか、
  - 価格交渉を行うほか、他施設と共同購入を行うなど行っている。
- 院内処方を増やした方が良いのでは。
  - 高額薬剤などは院内処方とした。それ以外の薬剤を院内処方とするのは薬剤師への負担から難しく、採算も取れない。

### (3) 経営状況月次報告（4月）

資料3に基づき、阿部経営企画局次長から説明

### (4) その他

特になし

## 3 閉会